



11月号

ひだまり

今月のエッセー

ランドセル



小学生が背負う物といえば何でしょうか？そう、「ランドセル」です。みなさんの中には、お子さんやお孫さんにプレゼントされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私も小学校に入学する時、祖父にランドセルを買ってもらい、六年間大事に使っていたことを今でもよく覚えています。

ランドセルは一般的に牛革で作られており、小学生の持ち物の中では、とても高価なものです。また小学校六年間毎日使用することに耐えられるように、とても頑丈に作られています。

そんな日本のランドセルが今海外では

お洒落アイテムとして大人の間で流行っているというのをテレビで見ました。なぜ、ランドセルが流行るのだろうか疑問に思いましたが、外国人の目にはお洒落で、コンパクトで、丈夫な新しいスタイルのバッグと映るのだそうです。

海外のハリウッド女優もランドセルをコーディネートしています。それを見て私はとてもお洒落だなと感じました。

しかし、ランドセルは海外だからこそ流行るのです。もし、日本で大人がランドセルを背負っていたら「あの人は大人なのに、何でランドセルなんか背負ってるんだろう」と思うことでしょう。それは、日本ではランドセルは小学生だけが使うものだという先入観や固定観念があるからではないでしょうか。

これはランドセルに限ったことではありません。私たちは普段あらゆる先入観や固定観念をもって物事を見ています。そのような先入観や固定観念を捨ててまっさらな心でみつめなおせば、もしかしたら、見慣れたものの中にも新しい価値観が生まれるのかもしれない。

◆國生徹雄

修行体験記 「有難い」



「君の心臓は誰が動かしているか分かるか？」

「…私自身でしょうか」

「では、君は自分で意識して心臓を動かしているのかい？」

「・・・」

「たとえ君が寝ていても、楽しい時も、死にたいと思う辛い時でも、その心臓を動かしているもの。そのいのちのはたらきを、私たちは仏と言っている。」

これは、私が横浜の總持寺にて修行していた時、単頭老師(修行僧を監督する役の僧侶)と交わしたやり取りです。

私はこの問いを投げかけられるまで、仏様とは、本堂や仏壇、道端に祀られているあの仏様だけを指すものと思い込んでいました。

しかし、その時老師は「果たして、それだけが仏様なのかね。」と、私に示唆を与えて下さったのです。

当たり前のように食事をし、当たり前のように排便をする私たち。しかし、この当たり前の一つ一つを見つめると、「私」が当たり前に行えている事なんて何もなかったのです。

「有難い」と手を合わせるのは仏様のみでなく、この身体もまた有難いものであったのです。 ◆畔柳公潤

編集後記



季節も秋から冬に移り変わり始め、一段と寒さが増してまいりました。寒い冬に気をつけたいのが風邪です。最近、世界中で猛威を振るっているエボラ出血熱や毎年悩まされるインフルエンザなど心配なことはありませんが、健康管理の秘訣は兎にも角にも「手洗い」と「うがい」だそうです。その効果はきめんで、手洗いは手に付着したウイルスを洗い流して身体への進入を防ぎ、うがいはのどを洗浄して細菌やホコリを粘液と一緒に取り除いて風邪を予防してくれます。原始的な手法ですが、日常生活の中で私たち一人ひとりが出来ることから始めていきましょう。 ◆田中仁秀

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門

〒一〇五・八五四四

東京都港区芝二・五・二曹洞宗宗務庁内

☎〇三・三四五四・六八四四

法のお話



一年度
田代浩潤
たしろこうじゅん

『じゃあ、あなたはどくなの？』

人肌恋しい季節の仕業か、今から六年半前、私が大学生だった頃、友人から貰った言葉を思い出しました。

月並みな話で恐縮ですが、当時私はある人のことを好きでした。いわゆる恋の病です。重病に告白の衝動を抑え難くなり、そこで告白すべきか否か、答えの分かり切った不毛な相談を友人に持ちかけたのでした。想いを散々吐露した揚句の果てに「どうしたらいいだろう？」と付け加えました。すると友人は今も私のこころに残る言葉を語ったのです。

「好きなのに告白しないのは隠し事しているのと一緒にだろ？しかも、好きなくせに平静を装っているんだから嘘を付いてい

るのと一緒にだろ？浩潤、嘘はやめよう」
更に続きます。

「好きだって伝えるのは飽くまで告白。付き合ってから結果はどうあれ、告白だけでもした方が楽になるんじゃない？」

単純な私はすっかり納得させられてしまいました。そして、思い立ったが吉日。その言葉を何度も反芻して胸の内にしつかりと留め、その日のうちに意中の女性にお時間を頂戴し、いざ清水の舞台から身を投げん覚悟で好意を伝えたのでした。寒い師走の出来事です。しかし間もなくして春は訪れたのでした。万歳。

一方、ここ最近の私はいえ、先月の訪問でお話させて頂いたように、「大人にならねば」の一心で、無批判にしかも一生懸命になって自分の気持ちに蓋をして主観を隠し、その代わりに周囲の意見に迎合・追従し、言わば周囲の目を物差しとして生きようとしていたのです。

「客観的に」という言い方はよくされます。しかし、現実的には人は誰もが主観として生きています。どんなに感情や欲を消したつもりになっても、主観という

本分から逃れることは絶対に出来ません。健やかなる時も病める時も、自分のこの体から逃れられないのと同様に、主観からも逃れられないのです。

それゆえに、他人の意見だろうと高邁な教えだろうと、それらは飽くまで一つの参考には出来ないのです。

実はそのことをよく表しているお釈迦さまの有名な言葉があります。「自灯明・法灯明」の故事として知られ、お釈迦さまが死に際して弟子に語り掛けたものとされています。

お釈迦さまの言葉
法灯明の故事

い

ここでは教えより先に、まず自己を抛り所にすることが説かれています。これは教えを飽くまで一つの基準とし、それはそれとして「じゃあ、あなたはどくなの？」と一人の生き方を常に仏教は私たちに問うている、そう取ることも出来るのではないのでしょうか。

迎合すれば周りは喜ぶかもしれませんが。

いろんな仏様

『千手千眼観世音菩薩』



今回ご紹介するのは、皆さんご存知の千手観音です。名前の通り、千の手を持つ姿で有名ですが、この千とは実際の手の数のことを意味しているのではなく、千手観音の慈悲が広く多くの人々に届くことを示しています。絵や像では、その広大な慈悲を二十四手や四十二手に集約して表されることが多いです。

千手観音は元々「正法明如来」という仏様でした。しかしその姿では人々を救済できないため、一切の人々の安楽と功德を願い、年中・昼夜を問わず誰しもを導き救済する千手観音へとなりました。人々の様々な問題を救済するその左右の手には、数々の仏具も持っています。千手観音はどんな人の悩みであっても、その人の問題に沿った救済をしてくれるのです。

あらゆることを救済してくれる千手観音。見かけた際は一度御参りをしてみてはいかがでしょうか。

◆中野太秀
なかのたいしゅう



私の〇〇自慢



さぬきしょうはいなりじんじゃ
『讃岐小白稲荷神社』

今回は、私の「隠れ癒しスポット」自慢！私が密かに癒されるパワースポットは、「讃岐小白稲荷神社」という神社です。私は現在、所属している曹洞宗総合研究センターに通うために、毎日浜松町駅を利用しています。その浜松町駅のすぐ近く、ビルとビルの隙間に隠れるようにひっそりと存在しているのがこの神社なのです。

ここは、もともと讃岐稲荷神社として一六三〇年頃、四国に創建されたと言われています。その後、明治三年に現在地に移り、昭和十二年に隣接していた小白稲荷神社を合祀して現在の「讃岐小白稲荷神社」になったそうです。町内の鎮守として今でも崇められているこの神社。通勤途中にお詣りすることで、忙しい時間に揉まれてすり減った私のこころを、すっきり癒してくれているのです。

◆竹村信彦
たけむらしんげん